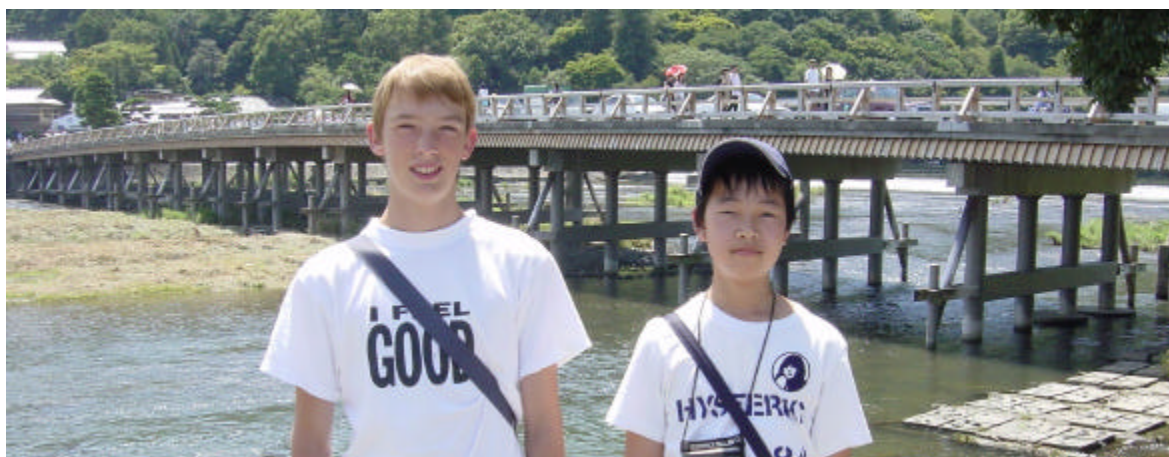


Newsletter

PTA International Friendship Committee

2005年3月1日発行 編集／東京都立国際高等学校 PTA国際交流委員会

国際高校では、年間を通して多くの留学生を受け入れています。
今回は、長期と短期それぞれのホストファミリーの体験を紹介します。



青い目の王子様が我が家にやって来た

私の家族は、祖母、父、母、私と妻、子供2人の7人家族です（2004年7月より長女はアメリカ留学中）。数年前までは、亡くなった祖父が畑仕事をやっていた、どちらかという古い家なのです。そこへ、2004年3月にスイスから留学生アーロン・リチャードがやって来ました。初めて会った時の印象は、私の思っていた外国人像と違ってとても恥ずかしがり屋の子供でした。あれから約10ヶ月間の私の家族との交流を下手な文章ですが書かせて頂きます。皆さんはホストファミリーと聞くと、言葉、食事、生活習慣はどうしているのだろうと初めに思われるでしょう。そこで、この3点について書かせて頂きます。

*言葉について

初めてのホストファミリーとして、この事が最大の問題でした。第一に彼の国のスイスがどんな言葉を使っているのかも知りませんでした。3月に初めて会って、ドイツ語と英語を使っている事が分かったくらいです。家族の中で英会話ができる者はほとんどいませんでした。長女がほんの少力で、私ときたらまったく駄目です。家に来る前は何

とかなるだろうという考えでしたが、いざ本人が来てみるとこれからどうしようかと不安になりました。それからというもの、電子辞書を片手に単語のオンパレードです。妻には『体当たり英語』と言われましたが（恥ずかしがらずに会話をする事が大切だと思います）、なんとか通じるものです。皆様、ご心配はいりません！！父、母ときたらアーロンに構わず日本語でした。アーロンの留学団体（YFU）は留学生に対し日本語の「くもん」を毎日の宿題としていましたので、それがかなりの効果がありまして、日本語が驚く程上手になり（本人の努力はすごかったです）、私達も頭が下がりました。

*食事について

妻が一番気になっていた事でしたが、アーロンは好き嫌いかほとんど無く非常に助かりました。食べられない物は納豆、こんにゃく、梅干しでした。箸も家に来た時は器用に使えてびっくり！！日本の食べ物凄くおいしいと言って、特に、いなり寿司（学校のお弁当に持って行く程）、おまんじゅう、カツ丼が大好きで、それを食べている姿を見ると何か不思議な気持ちになりました。やはり食事は非常に重要な事で（言葉よりも重要だと思います）、本人にと

って楽しい日本生活を送れるか、送れないかの要素になると思いますので、食べられない物を早めに分かってやる事が肝心です。ただ、少しぐらいは我慢してもらいました。



*生活習慣について

まず問題となったのはお金のことです。アーロンの留学団体は、食事代、宿泊費は無料で私達がボランティアという事になっています。それ以外の買い物のお金、遊ぶお金は本人負担です。笑い話があるのですが、銀行カードの事でアーロンは、『スイスの銀行は世界で一番だから、どこの銀行でも僕のカードは OK』と言っていました。結局、銀行では使えず、郵便局だけで使えました。日本人はとてもやさしいので、初めは、交通費、ちょっとした食事(ファーストフード)やコンビニでの買物のお金を出してしまうのですが、時間が経つとそれがホストファミリーの負担になってきますし、本人もそのつもりになりますので、

はっきりと区別した方がいいです。そうしないと、後で嫌な思いを残す事になります。私達も初めはそうでしたから。

次に生活面ですが、アーロンは日本のお風呂が大好きです。お風呂の中で歌を歌っています。スイスではシャワーのみで、それも7分から10分位でおしまいだそうです。一度、露天風呂に連れて行きましたが大変喜んでいました。アーロンも初めは遠慮がちでしたが、慣れてくると問題が出てきました。家族の物、自分の物の区別が無くなっていくのです。例えば、パソコンや電話など初めは聞いてから使用していましたが、それが無断で使用したり、夜の長電話になってくるのです。家族の中でモラルがあると、それを守りなさいと、私は怒りました(怒鳴ったと言った方がいいです)。生まれた環境が違う日本での生活は17歳にとって大変な事だと思います。ホストファミリーとしては、アーロンに楽しい思い出とともに帰国させてあげたいと思っています。これからホストファミリーの予定がある家族の方に私なりの考えを言わせて頂きますと、本人とよく話し合い、言いにくい事も言って納得してもらい、お互いが嫌な思いを残さず本当の家族のように接する事が大切だということでした。

以上がアーロンとの約10ヶ月間でした。最後に、「アーロン、楽しい思い出をありがとう！」。

穴戸伊助(2004年度 PTA国際交流委員)

ハリソンハイスクール

アメリカ インディアナ州から生徒6名、先生2名が来日(2004年6月21日から29日まで)

ホストシスター、ホストブラザーへのインタビューから、受け入れた側の感想と、留学生の様子・印象などをまとめてみました。

言葉

- ・思ったよりも日本語の会話ができなくて、英語の勉強になったが、はたして留学生の勉強になったかどうか。
- ・思ったよりも日本語ができていた。
- ・来日時に比べ、日本語が進歩していた。

通学

- ・生まれて初めて電車に乗ったので満員電車で驚いていた。

- ・満員電車の噂を聞いて知っていて、その通りだと納得していた。

食べ物

- ・今まで食べる習慣のないタコに挑戦して、やはり食べられなかったが、何度かチャレンジしていた。
- ・焼き鳥に「めっちゃ、うま！」を覚えた。
- ・アメリカから持ってきたホットケーキを家族に焼いてくれた。お返しに抹茶ケーキを焼いたら、大変気に入ってくれた。

お金

- 通学費以外のお金に関して
- ・京都で使うために、東京では我慢してあまり使わないようにしていた。
- ・原宿でレースソックスなどたくさん買い物をして、あっという間に一万円を超えてしまい、慌てていた。

- ・日光で青龍の置物(3500円)を買っていた 日本人なら買わないと思った。
- ・トラベラーズチェックが換金できなくて困った。本人もよくわからず、問題があった。

学校生活

生徒と学校、先生との間で連絡や確認が充分取れていなかったのだ

- ・授業のスケジュール変更があった時、留学生は控え室にとどまっていた、授業に出てこなかった。
- ・留学生が来ていることを知らない生徒に、『あの子、だれ?』と聞かれ、しらけた。学校全体としての受け入れがなされていないという印象だった。
- ・留学生が来ていることを担任の先生からクラス全体へ伝

えてほしかった。

最後に

『今回の体験は、自分と家族にとってどんなものでしたか?』の質問に対して、全員から『一心同体で疲れたが、よかった』『成功!』『他の人にもホストファミリーをやることを勧める』といった積極的な意見が出ました。

その後

今でも、生徒同士あるいは親同士がメール交換をしたり、クリスマスカードのやり取りや、本やレポートのための情報などを送ってきてくれたりと、温かい交流が続いているようです。



Foreign Food Fair 開催

“天高く馬肥ゆる秋...” 何を食べてもおいしいこの季節に、世界中の美味なお料理がたったの500円で食べられる! という、**国際交流委員会主催行事のメインイベント、Foreign Food Fair** が11月6日(土)に開かれました。世界15カ国と地域からの外国人生徒及び30カ国を超える帰国生が学んでいる高校であるということは、父母もそれだけ国際色豊かな人々が多いということで、その特色

を『世界の料理』という形で国際親善ができるのではないかと考えたからです。どれだけの人たちが参加してくれるのかという心配は当日のふたを開けてみて、見事に払拭されました。なんと、私たちの予想をはるかに上回る約100



人もの方々が参加して下さり、善意の差し入れが14名から17品、それに国際交流委員が準備したものをあわせると、60品にもおよぶ料理が集まり、委員一同大

いに感激しました。

まずはどんな食べ物かが英語で書かれたプレートを見ながら、「これはな~に?」「あ、これおいしい」などのお言葉を小耳に挟みながら、満足げにうなずく我ら委員もいれば、ダイエット今日だけはお休みだ、とおいしそうにほおぼる人、隣り合う初めて会う人にも料理をきっかけに話が弾む様子でした。お腹が満たされてくると、いろいろなゲームが始まり場内は笑いに包まれました。そして、ストリングスアンサンブルによる「虹のかなたに」などのすばらしい生演奏、生徒有志メンバーによるグループ「いいち娘」の「ジュピター」「タイタニック」などの歌にも一同聴き入っており、フェアに美しい花を添えてくれました。参加者の方々からも、「珍しい料理がたくさんで、おいしかった」「あんなにいろいろな国



の人が国際高校にいるとは思わなかった、レシピを教えてください」等の声が



寄せられ、塩崎校長先生やPTA会長からも「大変すばらしい会でした。国際高校の真価を見た思いです」と、嬉しいコメントをいただきました。

来年もまたこんな身近なことで、いろいろな人たちと交流できたらいいと思います。ありがとうございました!!!

国際交流デー

1月29日、韓国のソウル外国語高等学校より47名のお客様を迎え、国際交流デーが催されました。我校からの参加者も合わせ総勢約250名の熱気が桜陽ホールに溢れました。

まず生徒代表が花束贈呈。和服の説明と福笑いなど伝承遊びの紹介があり、餅つきでは日韓の若い力が爆発です。国際生による箏曲やチア部他の発表の後ソウル校生が披露してくれたのは農民の伝統芸能“四物遊(サムル

ノリ)”。そして中島美嘉やモーニング娘。の歌と踊りでは、彼らの日本に対する親愛の気持ちが感じられ、会場は大いに盛り上がりました。

中心となって会を動かした生徒の国際交流委員会、ずっと通訳を務めていた生徒さん...参加者皆の力で思い出深い感動的な集まりとなりました。閉会後も余韻覚めやらない国際生達がいっまでも校門の前で語りあっていました。

豪州シドニーより留学生 来日決定

(2005年4月16日から30日まで)

国際高校にこの4月、オーストラリアのノースシドニー・ボーイズ・ハイスクールで日本語を学んでいる生徒25名が、留学生として来日・滞在する事になりました。

ノースシドニー・ボーイズ・ハイスクールと国際高校とは姉妹校であり、1990年から始まった交換留学生

制度は現在まで続けられ、国際理解の点に於いて大きな成果を上げています。25名の留学生は国際高校の生徒の家にホームステイし2週間を過ごす事になり、彼らはそれをとても楽しみにしてくれています。受け入れる側である我校も全員が温かい気持ちで彼らを迎え、この2週間を実り多いものにできたら、と期待しています。

《2004年度 活動報告》

5/15 EU-Japan Friendship Day 協力参加(おにぎりスタンド出店)

6/5 ホストファミリー説明会(留学生受け入れ家庭対象)

6/21-29 米国インディアナ州 ハリソンハイスクールより留学生来日(ホストファミリーの援助)

7/10 ハリソンハイスクール留学生受け入れ報告:反省会

11/6 Foreign Food Fair(世界各国の料理を味わいつつ、保護者、教職員との親睦)

1/29 国際交流デー協力参加(生徒の国際交流委員会主催)

3/1 ニュースレター発行

3月中 ホストファミリー説明会(2005年度留学生受け入れ家庭対象)

*上記以外に定例委員会を毎月開催

編集担当 /

伊藤みどり、小島雪子、金雪子、桑原孝子、穴戸伊助、ペリー理香、水本弓子、市川成子ファクツ